

江別市部活動の在り方検討に係るワークショップの開催結果について

1. 実施概要

(1) 開催目的

- ①部活動の地域移行に係る国の動向等、基本的な「流れ」について関係者の意識を共有すること。
- ②地域連携の2つの柱「部活動指導員の導入」「拠点校方式の導入」をテーマに、導入にあたっての課題を洗い出し、「種目共通の課題」「種目特有の課題」「すぐに解決すべき（できる）課題」「中長期的に解決すべき（できる）課題」を整理すること。

(2) 実施日時・内容

- ・第1回：令和6年1月24日（水）18時から20時まで
北海道部活動の在り方検討支援アドバイザーによる講演（部活動の現状と動向）
テーマ「部活動指導員の導入」についてのグループ演習
- ・第2回：令和6年2月7日（水）18時から20時まで
テーマ「拠点校方式の導入」についてのグループ演習

(3) 参加者

- ・第1回 計52名
（内訳）教員17名 保護者15名 関係団体12名 公募市民8名
- ・第2回 計45名
（内訳）教員16名 保護者13名 関係団体 9名 公募市民7名

2. 結果概要

(1) 第1回ワークショップにおいて各グループから出された意見・課題等

①部活動指導員の集め方

〈種目共通〉

- ・専門性や指導力の確認方法。
- ・どのように指導員の数を確保するのか。（募集方法、人材バンク等）
- ・指導者の資格要件や必要人数。
- ・学校と指導員による面接実施の必要性。

〈種目特有〉

- ・競技人口の少ない種目の指導員確保。

②部活動指導員の待遇・職務

〈種目共通〉

- ・指導員のみで運営するのか。
- ・1つの部に対して何名で指導するのか。
- ・適正な時給、給与の額。
- ・大会引率は指導員単独で行うのか。

③部活動指導員の責任・連携

〈種目共通〉

- ・部活動指導員としての責任はどの程度なのか。
- ・体調不良等で休む場合の代替指導員はいるのか。
- ・平日（教員）と休日（部活動指導員）における引継ぎ。
- ・指導方針、情報の共有。

④保護者負担

- ・金銭的な負担。
- ・送迎等の移動に係る負担。

⑤その他（地域移行・地域連携全般に係ること）

- ・教員以外が関わることによる生徒の不安。
- ・市としての方向性がわからない。
- ・どのようなゴールを思い描くのか。

(2) 第2回ワークショップにおける意見・課題等

①拠点校顧問について

〈種目共通〉

- ・拠点校は何人での指導となるのか。
- ・拠点校顧問への業務のしわ寄せ。
- ・生徒数が増えることによる報酬と責任のギャップの拡大。

②拠点校の規模・範囲について

〈種目共通〉

- ・移動のことを考慮し、隣接校または市内3地区（江別・野幌・大麻）程度。
- ・人数が増えることで全ての子に指導が行き届かない可能性。
- ・自転車で移動できる範囲が望ましい。
- ・活動人数の多い種目の拠点は多く、活動人数の少ない種目の拠点は少なく。

③会場・設備について

〈種目共通〉

- ・大人数が練習できる会場がない。
- ・市の施設を優先的に使用することができるか。
- ・道具等の共有について。

〈種目特有〉

- ・雨天時の屋外部活の練習会場の確保

④移動について

- ・部活動の時間を考慮すると移動の伴う平日の拠点校方式は難しい。（特に冬期間）
- ・送迎のできる、できないによって選択肢に差ができること。

⑤その他（大会規定等）

- ・平日は移動面等の課題が多いため、まずは土日のみを実施する。
- ・チーム数が減ることによる子供たちのモチベーションの低下。
- ・拠点校、合同チームが認められない種目の対応。
- ・拠点校方式を始める条件や種目の決め方。
- ・複数学校から集まることによる会計の煩雑化。
- ・種目によって異なる出場規定。

(3) アンケート結果

①第1回ワークショップ

ア. 部活動の地域移行への理解が深まりましたか？

大変深まった	まあまあ深まった	あまり深まらなかった	深まらなかった
23	24	3	0
46%	48%	6%	0%

イ. 部活動の地域移行のため重要と考える事項は何ですか？

指導者の確保	地域運営団体の確保・整備	財源・費用負担	活動場所の確保
36	18	24	20
25%	13%	17%	14%

移動手段の確保	経済状況による格差解消	大会出場資格等の規則改正	生徒の安全確保
13	8	11	10
9%	6%	8%	7%

その他	
2	・生徒の問題行動に対する生徒指導上の対応 ・この制度を決定する人たちが、結局どこにゴールを置こうとしているのか、その方向性をまず決めること。
1%	

②第2回ワークショップ

ウ. 部活動の地域移行・地域連携（部活動指導員・拠点校方式）への理解が深まりましたか？

大変深まった	まあまあ深まった	あまり深まらなかった	深まらなかった
15	24	6	1
33%	52%	13%	2%

エ. あなたの立場から地域移行・地域連携するにあたって関われそうなことはありますか？

ある	ない
28	16
61%	35%

【「ある」の主な内容】

- ・部活動指導員として指導する。（教員）
- ・将来的に退職後に関わる。（教員）
- ・子どもの送迎を行う。（保護者）
- ・外部コーチの経験を活かして指導する。（保護者）
- ・土日の指導であれば可能かもしれない。（関係団体・公募市民）
- ・文化協会の加盟団体の活動に中学生が参加する。（関係団体）

オ.部活動指導員の導入を希望する（導入が可能と思う）学校・種目はありますか？

ある	ない	無回答
17	16	13
37%	35%	28%

学校名	部活動名等	区分
江陽中	ソフトテニス部	教員
-	バスケットボール	関係団体
江別第三中	運動部	教員
-	種目・学校問わず、負担に思っている指導者のところ	教員
-	バレーボール	保護者
-	人数が少ない種目	保護者
-	野球(土日限定)	関係団体
江陽中	野球・スラッグライン	公募市民
江陽中	合唱部	検討委員
大麻中	専門種目ではない部の担当者は望んでいる	教員
-	個人競技の部活、資金面でのやりくりがしやすい	保護者

カ. 今回のような機会があれば、また参加いただけますか？

はい	いいえ	無回答
23	17	6
50%	37%	13%

※「はい」の内訳

教員（5名）、関係団体（7名）、保護者（1名）、公募市民（4名）、未記載（6名）

キ. 北海道部活動の在り方検討支援アドバイザーによる講演の感想等

- ・学校管理下で行っていた活動が、地域の管理下へ移行する流れがわかった。
- ・部活動の地域移行の主目的が、教員の働き方改革ではなく、生徒が継続してスポーツや文化芸術活動を楽しめる環境づくりであることがわかった。
- ・総論の合意形成から各論の議論を行うことの重要性がわかった。

3. 当日の様子

【第1回】



【第2回】

